

国際製菓専門学校
平成 30 年度 自己点検・自己評価報告書（概要）

大項目	自己点検・自己評価
<p>基準 1 教育理念目的・ 育成人材像</p>	<p>本校の教育目標「知・技・倫・汗」とその理念は、「学生生徒便覧」等に、わかりやすく、明示されている。学外へも、主にホームページ、学校パンフレットで公表している。今後は、＜ディプロマ・ポリシー（どのような力を身につければ修了を認めるのか）＞の策定を図りさらに充実させる。</p> <p>また、本校では毎年、定期的カリキュラム等を見直している。今後も「教育課程編成委員会」への諮問や、業界の動向などを見ながらカリキュラムの編成を行っていく。</p>
<p>基準 2 学校運営</p>	<p>業務運営における意思決定は、学校法人及び学校内の各会議によってなされる。最高議決機関としての「理事会」とその諮問機関である「評議員会」の位置づけや役割、機能も明確化され、事業計画に基づいた効率的な意思決定を図っている。</p> <p>外部委員が中心となる「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」を定期的開催し、第三者からの視点による情報提供・助言も積極的に学校運営に反映させている。</p> <p>また、学校業務分掌は、「運営組織図」に基づいている。詳細に各メンバーの職務分掌・責任を明記している。今後も定期的に点検し整備していく。</p>
<p>基準 3 教育活動</p>	<p>本校の教育活動は、本校の教育理念、教育目標「知・技・倫・汗」に基づいている。</p> <p>1、学習指導の重点（知）</p> <p>① 基礎的・基本的事項の徹底</p> <p>② 一人ひとりの生徒・学生の能力・個性を生かした授業</p> <p>2、実習指導の重点（技・汗）</p> <p>専門技術を修得させることとともに、技術を磨くのに必要とされる「強い精神力・忍耐力・体力」も身につけさせる。また衛生管理についても徹底指導をしている。</p> <p>3、生活指導の重点（倫）</p> <p>全教職員は共通理解のうえで一人ひとりの生徒・学生の個性・能力・適正を的確に把握した指導を行う。そのうえで、自己実現能力を修得させることを生徒・学生指導の最終目的としている。</p> <p>4、進路指導</p> <p>就職希望者全員の要望に応えるよう懇切丁寧な指導を行う。</p> <p>企業・社会からのニーズに合致した教育内容とするため、業界関係者などから意見を聴取し、カリキュラムへの反映に努めている。進学をサポートも懇切丁寧に行う。</p> <p>5、諸検定について（知・技）</p> <p>一つでも多くの資格を取得し、社会に貢献できる人間を育成する。</p> <p>6、学校行事（倫・汗）</p> <p>学園祭、宿泊研修、学外研修を通して生徒・学生の人間教育を行う。</p> <p>今後は、＜カリキュラム・ポリシー＞の策定も視野に入れ、より体系的・組織的な教育課程構造を持つ活動を目指す。</p>

<p>基準4 教育成果</p>	<p>就職・進路指導に関する体制は就職担当教員を中心に、担任と連絡を密に取り合う指導体制になっており、十分機能している。本校講師として教壇に立っている製菓製パン業界の先生方のご理解もあって毎年高い就職率を誇っている。就職率向上のため、担任・教務・実習・進路指導の各職員が、多方面から指導・アドバイスを図り、学校全体で応援する環境を整えている。</p> <p>さらに、進路先のミスマッチを避けるため、在学中毎年12月の3週間に渡る企業研修については、時期を拡大して、8月の夏休みと3月の春休みにも行う対応をしている。枠を広げたことで12月の多忙月の研修移行がスムーズになり、又研修先を学生が探してくるなど、本人の意識向上や他学生に良い影響を与えている。</p> <p>また、製菓衛生師の資格取得にも大変な力を注いでおり、また様々各種検定にも意欲的に参加する学生が増加。特に製菓衛生師受験は、在学中合格率について、毎年100%（又はほぼ100%）という実績をあげている。</p> <p>その他、退学者、退学予備軍が生じないよう、担任・副担任・教務・実習の各職員が、出席率・授業態度を共有し、絶えず学生とコミュニケーションを取り、ケースバイケースでの面談実施を計り、情報共有化のもと、保護者との密な連絡を行う等、退学率の低減に努めている。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>学生相談に関しては各クラス担任及び副担任を中心に学生指導を行っており、個人面接も年間行事予定表に組み入れて実施している。また、進路指導担当の進路面接も必ず定期的に行っている。</p> <p>学生の経済的支援については、奨学金・教育ローン・学割などの利用が可能であるほか、特待生制度が設けられており、合格者には授業料全額または半額免除という減免措置を行う。また、AO入学者や指定校推薦入学者、留学生に対しての入学金減免措置等が設けられている。</p> <p>学生の健康管理面については、年度初めに校医の内科検診ほか健康診断を実施している。また、実習があるので検査機関に細菌検査を定期的に依頼している。養護教員は置いていないが、保健室があり、職員室にいる教職員全員で体調不良者やけが人の対処を行っている。学校から5分ほどのところに総合病院、また車で5分ほどのところに救急医療病院などがあり、病気やけがの状況に応じて各医療機関を利用している。</p> <p>課外活動に関しては、デコレーションの活動があり、専任教員と助手の指導のもと、長期休暇や土曜日あるいは放課後、実習室を利用しコンクール入賞を目指して前向きに活動している。</p> <p>学生の生活環境については、近隣の業者と提携し担当職員が学生寮やアパートの斡旋を行っている。</p> <p>保護者との連携は、学生の欠席の場合など担任が必ず家庭と連絡を取るようになっており、家庭との協力体制を普段から築くことにしている。</p> <p>卒業生の支援については、就職担当が転職等の相談に応じているほか、同窓会をたちあげ、情報交換の場を提供しようと動き始めている。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>施設・設備は効果的に教育目標を達成できるように、より良い環境の中で教育学習を行えるように、かつ安全・快適な教育環境を提供できるように整備している。</p> <p>学外実習は、就業体験を通して卒業後の進路を考える際に活かされている。</p> <p>海外研修においては、海外の事情や異文化、習慣の見聞とともに体験を通して、広く国際理解や国際親善の精神の向上を図る。同時に専門技術・知識を修得できるプログラムが組まれている。これからは国際舞台で活躍するグローバルな視野をもつ人材の育成が大切である。</p>

	<p>今般、アジアからの留学生が増えている中、本校においては留学生が比較的少ない。学校生活の中でも、留学生を通して国際理解を図れることを考えると、留学生を増やす活動を考えていきたい。近年は、タイの王立学校との交流を図るプログラムを計画している（両国の学生が相互に自国食文化を紹介するなど）。さらなる友好関係を築き、タイからの本校への留学を促すことを図る。</p>
<p>基準7 学生の 募集と受け入れ</p>	<p>現在、本校にとって最も重要な問題は、少子化に伴い、入学者の減少傾向が見られることである。このための有効な対策を見出すのはなかなか難しいが、中期的な構想を実現させるために教職員が一体的な取り組みを展開できるように、今後も定期的に会議を設け、発展的な意見をさらに出しあえるような組織づくりの構築を強化する。</p> <p>また、「食」という仕事の知識と技を専門的に学べる専門学校に進みたいと希望しつつ、経済的理由から断念せざるをえない学生には、夢を叶える方法としての各種の奨学情報をPRする。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>学校法人全体の財務および会計処理状況の点検を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入・支出の把握・処理は各学校、正確に行っており、計算書類も内訳表として作成しているので今後は、学校ごとに更に点検、評価をしていき、見直していきたい。 ・よりよい教育環境を維持していくため（整えるため）に財務分析を更に行っていく。 ・社会への説明責任を果たし、質保証・向上に取り組む観点から、財務諸表について積極的な情報公開を図る。
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>常に法人事務局が監理することで、学校教育法、専修学校設置基準、製菓衛生師法などの関連法規に準拠して運営をしている。今後は、教職員・学生等に対する啓発活動を積極的に図っていく。</p> <p>また、個人情報の取扱いについても、方針を記述した文章を配布してそれぞれの特性に応じて管理を厳重に行っている。今後も最新情報に対応しながら、さらに厳重管理をしていく必要がある。</p> <p>現在、製菓衛生師養成施設の学科（厚生労働省管轄）については、特別に定められた書式による自己点検・自己評価を定期的実施している。</p>
<p>基準10 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>年々、地域の方々の本校に対する興味関心が高まってきており、協力依頼が増加傾向にある。本校は移転当初から立川市に根ざした製菓学校を目指しているなのでその期待に応えることを目指す。</p> <p>製菓学校として地元の立川市などが主催するイベントには積極的に参加し、学生も製菓指導者(マジパンなどの作品指導)として無償で協力している。市民のみなさんからの反応はおおむね好評である。</p> <p>また、学園祭・販売実習など本校の行事を通じて地元の人々との交流の機会も大切にしている。いずれも、近隣の住民の皆さんにはご好評をいただいている恒例行事となっている。</p> <p>今後は、地域企業自治体と連携・協同し、商品開発や地域活性等の活動に年間を通じて取り組む「産官学協同プロジェクト」も予定する。</p> <p>なお、学校周辺での清掃活動は毎年度の検討事項であったが、今年度も実施には至らなかった。次年度はぜひ行動に移したい。</p>